

12月16日「米国・カナダ産牛肉等への対応についての説明会」アンケート集計表
(広島会場)

出席人数: 130 有効回答: 60 回答率: 46%

問1 あなたはどのような立場で参加しましたか。

	1 消費者団体	2 食品関連事業者(団体を含む)	3 生産者(団体を含む)	4 主婦	5 学生	6 無職	7 地方自治体職員	8 国家公務員	9 その他	* 未記入
問1	8	11	3	4	0	2	22	4	3	3
9	消費者・一市民									

問2 本日の説明会の開催を、どのような方法で知りましたか。

	1 厚生労働省・農林水産省のHP(報道発表資料)、配布物	2 厚生局・農政局のHP、配布物	3 農政事務所HP、配布物	4 その他の行政機関のHP、配布物	5 メールマガジン	6 新聞、雑誌等	7 所属団体からの連絡	8 その他	* 未記入
問2	19	5	8	2	2	6	18	3	0
6	飼料日報								
8	業務を通じて・厚生省からの案内・友人より								

問3 説明についておたずねします。

問3-1 説明内容について理解できましたか。

	1 理解できた	2 おおむね理解できた	3 どちらでもない	4 あまり理解できなかった	5 理解できなかった	* 未記入
問3-1	14	38	2	4	0	2

問3-2 提示したスライド資料の内容はわかりやすかったですか。

	1 わかりやすかった	2 おおむねわかりやすかった	3 どちらでもない	4 ややわかりにくかった	5 わかりにくかった	* 未記入
問3-2	8	42	5	3	1	1

問3-3 説明者の説明内容はわかりやすかったですか。

	1 わかりやすかった	2 おおむねわかりやすかった	3 どちらでもない	4 ややわかりにくかった	5 わかりにくかった	* 未記入
問3-3	5	41	9	2	1	2

問3-4 質問に対する行政からの説明はわかりやすかったですか。

	1 わかりやすかった	2 おおむねわかりやすかった	3 どちらでもない	4 ややわかりにくかった	5 わかりにくかった	* 未記入
問3-4	7	29	12	7	3	2

問3-5 質疑の時間は十分でしたか。

	1 長かった	2 やや長かった	3 ちょうど良かった	4 やや短かった	5 短かった	* 未記入
問3-5	3	13	22	11	2	9

問3-6 会場の広さは十分でしたか。

	1 広すぎた	2 やや広すぎた	3 ちょうど良かった	4 やや狭かった	5 狭かった	* 未記入
問3-6	0	7	41	5	0	7

問3-7 説明者の声はよく聞こえましたか。

	1 聞こえた	2 おおむね聞こえた	3 あまり聞こえなかった	4 聞こえなかった	* 未記入
問3-7	32	20	1	0	7

問4 説明会を開催したことを評価しますか。

	1 評価する	2 おおむね評価する	3 どちらでもない	4 あまり評価しない	5 評価しない	* 未記入
問4	16	27	7	2	2	6

問5 日頃からご関心の高いものについて、3つまでご回答下さい。

	1 残留農薬	2 食品添加物	3 動物用抗菌性物質(いわゆる抗生物質等)	4 環境からの汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ダイオキシン類)	5 天然毒素(カビ毒等)	6 加工中に生成する汚染物質(アクリルアミド等)	7 家畜の病気(BSE、鳥インフルエンザ等)	8 有害微生物(病原性大腸菌、サルモネラ菌等)	9 たばこ	10 食品表示	11 トレーサビリティ	12 その他	* 未記入
問5	22	23	14	10	5	2	26	4	5	27	10	1	8
	12	GMO											

問6 本日の「米国・カナダ産牛肉等への対応についての説明会」の感想、その運営などで、何かお気づきの点や感じたことがございましたらご記入下さい。

問6
説明会を行う時期が、輸入再開が決まってからで、言い訳にしか聞こえない。安全だとは思いますが、全く安心できない。国内の食肉に混乱が生じなければ良いが・・・。
厚生労働省・農林水産省の今後の管理機関としての責任の実行と公表により、消費者の評価を受けて信頼ある管理機関となして下さい。
輸入再開決定から輸入までの間が短く、消費者へあらぬ疑いをもたせている。輸入再開の時期をもう少し考えるなど、工夫が必要ではないか？どちらにしても、BSE検査済みの牛と未検査牛が同じ安全性として流通してゆくこれからの問題である。
全国で限られた回数しか開催されず残念です。広く国民に情報を提供するよう、積極的な施策の展開をお願いしたい。国民が抱えている不安を払拭するためには、必要以上に多くの情報が提供されることが求められていると思う(自治体を通じた情報提供にも限度があるため、国として説明会に準じた内容を冊子で提供するなど)。
消費者の不安がどこからきているのか、分からない。それをきちんと分析しないと、どうしようもない。
一般消費者から学者まで幅広い方への回答を聞くと、皆さんの理解に差が出る。そこをどう整理するか難しいものを感じた。
アメリカ・カナダのBSEも心配ですが、現在中国から入ってきている牛肉は、安全なのでしょう？そのあたりの対応も知りたいです。
この問題のむつかしさが浮き彫りになっただけでも有意義でした。
12/16アメリカから肉が空輸にて届いたことを承知なさいましたが、余りの速さに驚きと日米関係を驚異的にも感じてます。
時間が少なすぎる。もっと意見を言う時間を設けるべき。
日本に輸入される米国・カナダ産牛肉に「BSE検査陰性確認」の条件を加えれば、消費者の信頼も得られたと思います。難しかったとは思いますが。
説明会の開催自体は評価するが、もっと早く開催を案内するのと、もっと全国規模で開催をすべき。食肉の輸入再開については時期尚早で、怒りを感じている。
食の安全・安心のためにも正しい情報をお願いします。また検査体制をきちんとしてほしい。
直接対話することの効果及び重要性並びに必要性を感じました。消費者の情報源が報道情報である現実から、今度はマスコミ対策、利用方法がますます課題となると感じました。
一定時間で質問を切るほうが、説明会が締まる。
幅広い情報を映像で見せる努力がいる。
北米産牛肉が安全であるというこの発言がなかった。もっと消費者へアピールできる方法などをとって欲しい。
説明はおおむね分かったが、安心はできないので、まだ食べられません。
選択するのは消費者という部分を強く感じました。せめて、選ぶための表示について、もっと厳しいものを求めています。“安全なものとして”といわれるけれど、何をもって安心といえるのだろうか？とかなり不安になります。
不安のある食品は輸入すべきではないと考えます。食品添加物等多い現状の中、人間の体がまともにも保たれるのか、特に子どもたちに安心安全なものを供給してほしいです。もし将来BSEによる被害が起きた時、どう責任を取るのですか。
市場に出回るすべての食品が安心して食べられるよう、今後も検査や表示に取り組んで欲しい。
BSEについて、科学的な評価ができていない状況の中で、全頭検査もないままの輸入をなぜ進められるのでしょうか？BSEについての科学的評価は困難とされている。委員の中に、異論があるのであれば、国民の生命にかかわることですので慎重に考えて下さい。「不協和音」というような例えは、国民と委員をばかにしています。厚生労働省として「HIV」の時のようにならないよう心して仕事をして下さい。どちらを向いて食の安全を考えておられるのですか。質問に答える方の肩書き名が読み取れないので表示は大きくして下さい。
「100%安全な食品はない」ということへの理解が進んでいないと感じました。
説明会の内容は全く納得いかない。責任は誰がとるのか。今後大きな禍根を残すことが憂われます。
説明会そのものの開催が、一部の都市部に限られ、この点で、幅広く実施できるようにしていくことが必要。食安委答申が12/8、輸入再開決定が12/12、説明会開催が12/15-21(9カ所)という流れに対し、12/13に査察、12/16に第1便輸入という流れは、いくらその内容に問題性がなく、科学性合理性はあっても国民感情からは理解しにくいものである。この点で、既に国内でも21月令以上だけでなく、全頭検査をいかにやらざるを得ない現状があるにもかかわらず、国民・消費者の感情を考慮していない面を感じる。安全性ばかりをいくら並べても、安心感がもてなければ、消費者は納得しない。これは説明会などの頻度とも関係する。
米国産牛肉の流通により、国内で偽装が起こるのではないかと心配です。出席者の皆さんが言われる通り、食品安全委員会は中立公正に評価を行う独立した機関という印象はなく、単なる政府の御用機関という印象をさらに受けました。残念です。消費者は選ぶ権利が法により定められています。不安のある加工食品、外食メニューの表示について、選ぶことができるように表示義務をしっかりと行うべきだと思います。今回の件について、消費者の自己責任と言われますが、EUや豪州が「安全性が確認されていない」として輸入を停止している中、日本政府が輸入を再開したということは、リスクに対する責任が国・食品安全委員会に当然あると考えます。
米国のと畜場において1年余りの間に1036件もの違反が起こった事実がある中、日本側が文書による指摘や査察での監視を行ったとしても守れるとは思えず不安です。飼料の交差汚染の危険性がある現時点での米国産牛肉輸入再開は、早すぎます。日本政府のこの度の再開までの対応も強引すぎると感じます。
1. 司会・進行はテキパキと！ 2. 質問者の時間制限はしたが、回答時間が質問の5-10倍増し、ダラダラとなった！ 3. 拳手を初めから最後まででいて、やっと最後に質問した人がいて、可哀想だった。 4. 外食のガイドラインをきつく指導しなければならない。